

(52)0705 癒し・祈りの熊野古道

041505 締め切り 041505 提出

世界遺産となった熊野古道

2005年3月初め、急遽、熊野古道視察に行くことになりました。単に観光旅行でなく、視察というのが自分でもオヤという感じがありました。熊野古道には、2004年暮れにユネスコから世界遺産として登録される以前から興味を持っていて、ぜひ1度行ってみたいと思っていたところなので、視察の話が来たときには、オイソレという感じで乗ったのでした。

話は、世界遺産となったことから、国土交通省と和歌山県が観光資源として活用するにはどうしたらいいかを民間の総合研究所に調査を委託し、その中核に温泉と気功を置くことを想定し、私に視察とアイデア提供とが回ってきたという訳でした。

熊野は蘇りの地

熊野地方は、蘇り（よみがえり）の地として知られています。私の知識では、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）が妻である伊弉冉尊（いざなみのみこと）が死んで黄泉（よみ）の国（あの世の世界）へ行ってしまったので、この世の世界に呼び戻したのが現在の熊野地方にあたり、黄泉から帰った、すなわち、蘇りの語源になったということになっています。

また、熊野地方に十津川村があり、私の故郷である札幌に近いところに新十津川村があって、明らかに明治以後に北海道開拓の波に乗って移住してきた人たちの出身地としても気になっていました。

熊野地方は霊場として知られています。この霊場とは何でしょうか。キリスト教に關係してルルドの泉のような聖地が知られていますが、やはり霊気・霊性のたまりやすいところなのではないでしょうか。ある程度の年配の多くの日本人は、古くからある神社周辺では、特別な神聖な雰囲気を感じると思います。これは

靈氣を感じているのではないかと、私は考えています。後鳥羽上皇も、後白河上皇も公務をほったらかし（？）、当時片道3週間もかかったところへ京都から20回以上も訪ねて、滞在したのはどうしてだったのでしょうか。

### 交通不便で認められる世界遺産

私は最近、広い意味で医療と宗教の関係について考えていますからぴったりのタイミングであったともいえます。さて、実際の旅行スケジュールを作るのにあたって、東京 - 熊野間の交通が予想以上に不便であることがわかりました。誠に矛盾した話なのですが、熊野のような地域は交通が不便であることから昔ながらの古道などの遺跡が残されていて、訪ねて行くことによって非日常的経験をすることに価値があるわけですが、首都圏からも人を呼ぶにはどうするかを検討してプロジェクトがうまくいくと価値を損ねてしまう可能性が大いにあり、本当に悩ましい問題です。

たったの2日間，1日わずか数時間ずつ歩いただけですが，さすが熊野古道の道端には素朴な石仏が傷みながらも残っていたりして，かえってそれが風情あるものに感じられたりしてなかなか魅力的な場所でした。

### 霊場としての熊野

さて，霊場・霊性はどうなってしまったのでしょうか。熊野の語源は、「カミ」「カミの籠る所」などとされ、霊験あらたかなところとされています。私が，このたび訪れたのは，熊野三山のうち熊野本宮周辺だけですが，現在の熊野本宮の状況について少し説明する必要があります。全国に3000以上という末社をもつ熊野神社の本社です。熊野本宮は，昔は12も社殿があり，熊野川と他の2つの川にとり囲まれた三角州のようなところがありました。しかし，明治22年に大洪水があり，現在では4宮だけが少し離れた高台に移転・安置されています。旧社殿の跡地には記念碑の

ようなものが残されていますが、地形は全く変わっています。それは、昭和30年代に洪水による災害を避けるためと電源開発のために上流に2つもダムが作られ、旧社殿地を取り囲む3本の川のうちわずかな水量の熊野川を残して他の2つは干上がってしまったのでした。熊野古道は、紀伊半島の山中を縦横にといってよいぐらいにめぐらされているのですが、そのいくつかはこの熊野本宮に詣でるためのものでした。熊野古道のいくつかも、アスファルトの道路で分断され、熊野本宮も惨々といつてよいような状況に置かれているのです。

私にはよくわかりませんが、聖地の靈気には、地理・地形・地勢が関係するという人がいます。風水の考えは、この考えに相当するものとみられ、奈良県などには大きな岩や山全体が御神体となっているところもあるようです。当然のことながら、地理・地形・地勢が変われば靈気のあり方も変わるということ

でしょう。

これは全くの仮説ですが，靈気の集まるための基本的条件である自然環境を破壊してしまつて，靈気を利用する観光開発を行うことは成立しにくいことに思われます。世界遺産に登録されたことを利用して観光開発を行うと，さらに靈気が集まりにくくなるのではないのでしょうか。

ところで，あちこち歩き回っているうちに不思議なことが起こりました。私と一緒に視察をしていた民間企業総合研究所の女性研究員の1人は，靈に興味を持っていて前日私が気功をしてあげたりした人でしたが旧社殿地を歩いているうちに気功を受けたときのような感覚を，特に手に強く感じるということです。私が気功をしている（発功）時には，手指に軽くチリチリ，あるいはピリピリする感覚が起きるのですが，確かに旧社殿地内の特定の場所に近づくと，発功時と同じような感覚が起きました。靈気を感じたということかもし

れません。

## 癒し 祈り

さて、本宮町の土産物屋をのぞいているうちに、興味を引くポスターが張られているのに気づきました。絵柄は熊野本宮をバックにして、「癒し 祈り」の言葉だけのものでした。おそらく、町か観光協会が製作したものと考えられます。癒しは医療の原点であり、祈りは宗教の原初と考えられますから「医療と宗教」が熊野のキャッチフレーズということになります。そういえば、前夜は本宮町にある日本最古といわれる源泉掛け流しの温泉につかり、とてもいい気持ちになったのでした。後鳥羽上皇・後白河上皇の時代は、源氏・平氏、鎌倉幕府とのあつれきも厳しかったころですから、心身のリラクゼーションを得るのに熊野に詣でる気持ちは理解できなくもありません。

私は最近、「医宗同根 医宗合一」の造語

が気に入っています。道教の言葉，医食同源・心身合一などから借用しました。

挿絵：春の安芸の宮島。4月の桜にはもう遅い春の安芸の宮島です。建て替えられているにしても、千年以上も昔によくぞこんな美しくて壮大なものを建てたものです。清盛の当時の威勢が窺われます。昼食のアナゴ井がおいしくて、以来アナゴの大ファンになっています。